



福岡県
江川歯科医院
江川 光治 先生

透明感の再現に有効なブルーの インサイザルトランスルーセント

近年、テクノロジーの発展により我々歯科医師は優れた様々な有機高分子歯科材料を手にすることができるようになってきた。特に充填用コンポジットレジン

は昨今のMI治療コンセプトの高まりにより、各社から素晴らしい商品が次々にリリースされている。その反面、選択肢が多く、臨床に取り入れるには何を基準にすればよいのか苦慮することもあると思われる。歯科材料には審美性、色調調和性、操作性、研磨性や光沢の維持、物性はもちろん、簡便性、コスト、入手の容易さなども考慮すべきであると考え。

カーから発売されたコンポジットレジンのハーモナイズは、新規開発球状クラスターフィラーとカーの増粘剤技術により高い操作性や研磨性を獲得している。更に天然歯と同様にバランスのとれた光拡散性により、優れたカメレオン効果を実現している。高い操作性と色調調和性、簡便に得られる審美性は今までのコンポジットレジンと一線を画するレベルである。また、シェードのラインナップが最適化されていることにも注目したい。プレミスなどの従来品も、明度による様々な色調の歯牙に対応してきたが、ハーモナイズではインサイザルトランスルーセントにブルーが追加されている。当然、従来品より定評のある高い物性、非常に低い重合収縮率は同様に継承されている。

前歯のコンポジットレジン修復を成功させるには、形態、色調、表面性状などを周囲の歯と調和させる必要がある。概ね、レジンの色調はボディシェードを合わせ、境界部のグレーエリアを消し、切端1/3の複雑な内部構造を再現することを念頭に置いている。今までは、若年者の切端部の透明感を再現するために、象牙質層のマメロンを再現した後、マメロン間から切縁にかけてブルーからラベンダーのテントを使い、抜け感を出すためにクリアのトランスを適度な厚さで置き、更に最表層のエナメルに厚みに注意して築盛していた。このような方法で繊細な色調を再現するには、若干の熟練を要する。ハーモナイズはインサイザルトランスルーセントのブルーによる再現が可能で、厚みと色の抜け具合の加減が容易となった。

ペーストの操作性はプレミスで定評のサクサクした感じは無いが、窩壁適合性や多層充填の際のペースト間の馴染みはむしろ良好である。また、様々な曲面からなる臼歯の隆線や前歯のラインアングルなどの風合いを再現するには、ペーストが元の形に戻ろうとする表面張力と術者がインストゥルメントにより加える力とのバランスで作ることが可能である。

メーカーが掲げる「ガッチリ固まる長期安定性」「スルリと盛れる操作性」「キラリと光る審美性」をより簡単に提供してくれるハーモナイズは、私の審美歯科臨床には欠かせないアイテムとなっている。



1 明らかに不適合で明度の違うレジン充填が入っている。



2 窩洞形成後、ラバーダム防湿を行い、アダプトセクショナル マトリックスとウェッジを装着。



3 フロアブルレジンでバラタル及びプロキシマルウォールを作り、ハーモナイズのデンチンB3を充填。



4 切端側にわずかにインサイザルトランスルーセントのブルー、その上層、歯頸部付近にエナメルA3.5、中央から切縁までエナメルA2でカバーした。



5 研磨後の様子。周囲の歯との調和が得られた。